

18 頸髄損傷者に対する機能訓練（集団訓練）の試行について

自立訓練部 機能訓練課 輪竹一義、市川眞由美、田中 匡、森田奈々、高橋文孝
植木朋子、樋口幸治、岩渕典仁、白浜 一、三好尉史

【はじめに】

当部では、2009年10月から頸髄損傷者等に対する自立訓練（機能訓練）を開始した。限られた契約期間の中で個々人の目標を達成するためには、機能訓練を効率・効果的に提供していく必要がある。一つの試みとして、2011年7月から頸髄損傷者の訓練プログラムに集団訓練を取り入れて実施した。また、集団訓練に対する利用者の満足度調査を実施したので報告する。

【集団訓練導入の目的】

現状は、利用者全体に筋力・持久力不足の印象が強く、中には訓練に対する意欲や意識の低さが明らかな人もいた。これらの理由だけではないが、予定訓練期間内の動作未獲得やADLの自立が遅延するなどの課題があった。これらの課題解決に向けて各部門と話し合いを行った結果、各動作獲得の基本となる筋力増強、体力・持久力の強化・訓練意欲の向上と社会性の向上を図るため集団訓練を導入することとした

【集団訓練実施内容】

①運動（ツインバスケット、水泳、ボッチャ、ポートボール、鬼ごっこ）②移動（屋外移動、公共交通機関の利用）③日常生活・自己管理等（調理、シーツ交換・清掃等の家事動作、圧測定・除圧動作確認）

【集団訓練実施方法】

毎週水曜日 13:00～15:00 に、週単位、または月単位で実施した。上記のプログラムを一通り実施した後、利用者の満足度調査（参考資料1）を実施した。

満足度調査の対象は2011年10月時点での利用者11名（男性10名、女性1名、平均年齢29.2±10.8）とした。調査内容は集団プログラムの満足度、実施内容を運動、移動、日常生活・自己管理等に分け内容、時間、頻度を調査した。

【結果】

集団プログラムに参加して良かったと答えた人は、11/11名。興味があった内容はツインバスケットボール8/11名、公共交通機関利用9/11名と多かった。一方で不満の多い順に日常生活動作・自己管理等の内容に不満4/11名、移動の内容に不満2/11名であった。また移動の時間が短い2/11名、頻度が少ない3/11名であった。その他、もっと外に出た方がいい、月に一回のペースで一日使って電車に乗って買い物など、退所後の生活に役立つと思う、気分転換になるスポーツとは違った体力がつく等の移動に対する前向きな意見が多く聞かれた。

【まとめ】

今回の結果により、集団プログラムの必要が感じられた。現時点では、取り組みを始めたばかりのため今後対応すべき課題が多い。今後も、定期的に利用者の意見を取り入れながら、集団プログラムを通して限られた期間内で社会復帰に必要な支援を充実させていきたいと考える。

(参考資料1)

集団プログラムに関するアンケート

性別 男・女

年齢 ()

1. 7月より実施している集団プログラムについて、お聞きします。

①集団プログラムに参加して良かったですか? (はい ・ いいえ)

②内容 (満足 ・ まずまず ・ 不満)

時間 (長い ・ ちょうど良い ・ 短い)

頻度 (多い ・ ちょうど良い ・ 少ない)

2. 実施した内容について、お聞きします。

①興味があった内容に、○を付けてください。(複数回答可)

・運動 (1 ツインバスケット 2 水泳 3 ボッチャ 4 ポートボール
5 鬼ごっこ)

・移動 (6 屋外移動 7 公共交通機関の利用)

・日常生活・自己管理等 (8 調理 9 シーツ交換・清掃等の家事動作 10 圧
測定・除圧動作確認)

②運動に関して

内容 (満足 ・ まずまず ・ 不満)

時間 (長い ・ ちょうど良い ・ 短い)

頻度 (多い ・ ちょうど良い ・ 少ない)

③移動に関して

コース (満足 ・ まずまず ・ 不満)

時間 (長い ・ ちょうど良い ・ 短い)

頻度 (多い ・ ちょうど良い ・ 少ない)

④日常生活動作・自己管理等に関して

内容 (満足 ・ まずまず ・ 不満)

時間 (長い ・ ちょうど良い ・ 短い)

頻度 (多い ・ ちょうど良い ・ 少ない)

⑤集団プログラムの内容、進め方等について、ご意見をお書きください。

[]

3. 今後、集団プログラムを通して経験したいことについて、○を付けてください。

- ① 体力向上に関する事
- ② 住環境に関する事
- ③ 自助具・補装具に関する事
- ④ 福祉制度に関する事
- ⑤ その他（今後、集団プログラムを通して経験したいことを自由にお書きください。）

具体例：家族を含めた介護指導、福祉・補装具業者を呼びデモンストレーション等

ご協力ありがとうございました。